



(様式第9)

北里病発第 号
平成19年10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 北里学園 北里大学
理事長 柴 忠義



北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|-------|
| 研修医の人数 | 123 人 |
|--------|-------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|------|------|--------|-----------|-----|-------------|-------------|
| 医 師 | 399人 | 179人 | 427.6人 | 看護業務補助者 | 56人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 1人 | 3人 | 1.3人 | 理学療法士 | 20人 | 臨床 検査 | 臨床検査技師 111人 |
| 薬剤師 | 48人 | 1人 | 48.5人 | 作業療法士 | 5人 | | 衛生検査技師 1人 |
| 保健師 | 7人 | 0人 | 7.0人 | 視能訓練士 | 10人 | その他 | 0人 |
| 助産師 | 34人 | 1人 | 34.3人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看護師 | 950人 | 32人 | 964.9人 | 臨床工学技師 | 28人 | 医療社会事業従事者 | 7人 |
| 准看護師 | 4人 | 0人 | 4.0人 | 栄 養 士 | 7人 | その他の技術員 | 16人 |
| 歯科衛生士 | 0人 | 0人 | 0人 | 歯 科 技 工 士 | 0人 | 事 務 職 員 | 195人 |
| 管理栄養士 | 20人 | 人 | 20.0人 | 診療放射線技師 | 61人 | その他の職員 | 89人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、少数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|--------------|-----------|-------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 823人 | 人 | 823人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2556.3人 | 人 | 2556.3人 |
| 1日当たり平均調剤数 | | | 2012.9剤 |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----------------|---|-------|------|
| NEUROLOGY | Endothelial dysfunction in MELAS improved by L-arginine supplementation. | 石井正浩 | 小児科 |
| 日本小児科学会雑誌 | クシッパにおけるクリニック実習・プライマリケア実習の教育効果. | 石井正浩 | 小児科 |
| 日本小児科学会雑誌 | 三自治体合同による小児救急医療体制構築の試み. | 石井正浩 | 小児科 |
| J Pediatr | Prediction of resistance to intravenous immunoglobulin treatment in patients with Kawasaki disease. | 石井正浩 | 小児科 |
| J Child Neurol | Remission associated with human herpesvirus infection in west syndrome. | 石井正浩 | 小児科 |
| 日本マス・スクリーニング学会誌 | 濾紙血TSH, free T4同時測定によるクレチン症マススクリーニング～当院における5年間の結果～. | 石井正浩 | 小児科 |
| 日本化学療法学会雑誌 | Arbekacinの新生児母集団パラメーター解析に基づいた初期投与法の再評価 | 石井正浩 | 小児科 |

| | | | |
|---------------------------------|--|-------|----------------|
| 日本化学療法 学会雑誌 | 小児における teicoplanin の母集団薬物 動態解析. | 石井正浩 | 小児科 |
| JOURNAL OF HUMAN GENETICS | Identification of novel RMRP mutations an specific found haplotypes in Japanese patients with cartilage-hair hypoplasia | 坂東 由紀 | 小児科 |
| | | | 小 児 科 計 9 件 |

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|-------|-------|
| CIRCULATION JOURNAL 70(4) 482-488 | Angiotensin II Receptor Antagonist Attenuates Expression of Aging Markers in Diabetic Mouse Heart. | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| CIRCULATION JOURNAL 70(5) 605-609 | Tumor necrosis factor- α downregulates the voltage gated outward K ⁺ current in cultured neonatal rat cardiomyocytes-A possible cause of electrical remodeling in diseased hearts- | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| INTERNAL MEDICINE 45(7) 429-434 | Central Neurotranspeptide, Alpha-Melanocyte-Stimulating Hormone(α -MSH) is Upregulated in Patients with Congestive Heart Failure | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| Journal of atherosclerosis and thrombosis 13(4) 216-219 | The Anti-Atherosclerotic Effects of Lipid Lowering with Atorvastatin in Patients with Hypercholesterolemia | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| CIRCULATION 114(9) 936-944 | Beta2-Adrenergic agonists suppress rat autoimmune myocarditis: potential role of beta2-adrenergic stimulants as new therapeutic agents for myocarditis. | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| CURRENT MEDICAL RESEARCH AND OPINION 23(2) 395 -400 | Long-term trial of bosentan monotherapy for pulmonary arterial hypertension in Japanese patients | 和泉 徹 | 循環器内科 |

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|---|-------|-------|
| CIRCULATION JOURNAL71(3) 397-404 | Resveratrol Ameliorates Experimental Autoimmune Myocarditis | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| International Heart Journal 148(2) 155-163 | Clinical Usefulness of Electrophysiologic Study(EPS)- Guided Risk Stratification for Life-Threatening Arrhythmia in Patients With Heart Failure | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| International Heart Journal 48(2) 195-204 | Increased Serum Bilirubin Levels Coincident With Heart Failire Decompensation Indicate the Need for Intravenous Inotropic Agents | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| TISSUE ANTIGENS 69(3) 265-269 | Lack of association between LTA and LGALS2 polymorphisms and myocardial infarction in Japanese and Korean populations | 和泉 徹 | 循環器内科 |
| Progress in Medicine 1493-1498 | 低心機能症例におけるアミオダロ ンの位置づけ-心房細動- | 庭野 慎一 | 循環器内科 |
| Therapeutic Research 27巻709-713 | 低心機能例の発作性心房細動に対 するアプリンジンの効果-自覚発 作頻度を指標としたアミオダロン とのCross-Over比較- | 庭野 慎一 | 循環器内科 |

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|--|-------|---------------|
| JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY 17(8) 865-870 | Evaluation of exercise-induced T wave changes in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy before and after beta-blocker therapy. | 庭野慎一 | 循環器内科 |
| CIRCULATION JOURNAL 70(8) 965-970 | Rate Control and Quality of Life in Patients With Permanent Atrial Fibrillation. -The Quality of Life and Atrial Fibrillation (QOLAF) Study- | 庭野慎一 | 循環器内科 |
| | | | 循環器内科 計14件 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|---|-------|--------------|
| Nephrol. Dial. Transpl 21(4);1073- 1081, 2006 | Characteristics of polyclonal anti-human nephrin antibodies induced by genetic immunization using nephrin cDNA. | 青山東五 | 腎臓内科 |
| 北里医学 37(1): 7-11, 2007 | 一次性巣状分節性糸球体硬化症にみられるcellular lesionの特徴と由来についての検討. | 佐野隆 | 腎臓内科 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | 腎臓内科 計 2件 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|---|-------|---------------|
| Journal of Neuroscience Research | Expanded polyhistidine variants of HOXA1 inhibit neuronal differentiation and reduce PBX1-coupled transcriptional activity. | 山本賢司 | 精神科学 |
| PSYCHIATRIST (サイキアトリ スト2006上半 期) | －緩和ケアにおける精神科医の役割－ | 山本賢司 | 精神科学 |
| 日本臨床 | 【がん緩和医療 緩和ケアチーム】 精神科医の関与と役割. | 山本賢司 | 精神科学 |
| 精神科治療学 | 症状性(器質性)精神障害の治療ガイドライン】 第2章 特定の物質の不足ないしは過剰に疾患が由来する病態 4)非依存性医薬品 8)抗ヒスタミン薬の服用に伴う精神症状 | 宮地伸吾 | 精神科学 |
| 健康教室2007 2月増刊 健康教育の現在 | AD/HD | 井上勝夫 | 精神科学 |
| 精神科治療学 | 初老期・老年期に特徴的な幻覚・妄想 | 井上勝夫 | 精神科学 |
| | | | 精神科学 計 6 件 |

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|---|-------|---------|
| Arthritis Rheum, 54: 312-324, 2006. | Accuracy of anti-ribosomal P protein antibody testing for the diagnosis of neuropsychiatric systemic lupus erythematosus. An international meta-analysis. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Arthritis Res Ther, 8: (Fulltext available online) http://arthritis-research.com/content/8/2/R54 , 2006. | Enhanced expression of mRNA for nuclear factor κB1 (p50) in CD34+ cells of the bone marrow in rheumatoid arthritis. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Nat Clin Pract Rheum, 2:358-359, 2006. | Is the long-term use of systemic corticosteroids beneficial in the management of Behcet's syndrome? | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Curr Rheumatol Rev, 2: 47-54, 2006 | Role of bone marrow in the pathogenesis of rheumatoid arthritis. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Medical Practice , 23:624-638, 2006. | 膠原病・セミナー/膠原病の特異病変における診療のポイント。中枢神経病変。 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 最新医学, 61:993-999, 2006. | 特集 自己免疫疾患の新しい治療法—生物学的製剤を中心に— エファリズマブ (LFA抗体)とナタリズマブ (VLA-4抗体)。 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|-------|---------|
| 内科, 97:1238-1239, 2006 | 特集 内科疾患最新の治療—専門家からのアドバイス VI. 膠原病・免疫・アレルギー— Behcet病. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Rheumatology Clinical Update, 13:19-21, 2006. | 関節リウマチ骨髄CD34+細胞からの線維芽細胞様細胞の分化. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 治療学, 40:732-733, 2006. | 「関節リウマチ —積極的な治療へのパラダイム転換」 Suggestion: 関節リウマチの病態形成における骨髄異常について. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| リウマチ科, 36:58-64, 2006. | 特集 リウマチ・膠原病にみられる自己抗体 —その対応抗原と臨床的意義 抗リボソームP抗体. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 臨床整形外科, 41:962-969, 2006. | 整形外科医が誤りやすい膠原病. | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 医学書院, 608-610, 2006. | 14. 膠原病及び類縁疾患 ベーチェット病(内科): 「今日の治療指針 2006(ポケット版)」 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|-----------------------------------|--|-------|---------|
| 南江堂, 52-54, 2006. | 6. 抗リウマチ薬各論—本邦既承認薬 6-2免疫抑制薬 4. タクロリムス. 「抗リウマチ薬の選び方と使い方」 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 南江堂, 81-89, 2006. | 7. 抗リウマチ薬各論—本邦未承認薬 7-2免疫抑制薬 1. アザチオプリン、 2. シクロホスファミド、3. シクロスポ リン. 「抗リウマチ薬の選び方と使い 方」 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 南江堂, 205-220, 2006. | III. 骨・関節疾患 1. 骨粗鬆症、2. 関 節リウマチ、3. 変形性関節症. 「薬物 療法学」 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| 診断と治療社, 328-337, 2006. | 第4部疾患としてみた膠原病・リウマ チ “膠原病” H. Behçet病. 「EXPERT膠 原病・リウマチ」改定第2版 | 廣畑 俊成 | 膠原病感染内科 |
| Arthritis Res Ther, 8, R104 | NOS2 polymorphisms associated with the susceptibility to pulmonary arterial hypertension with systemic sclerosis: contribution to the transcriptional activity | 岡田 純 | 膠原病感染内科 |
| Mod Rheumatol , 16(6), 389-394 | Coexistence of nodular regenerative hyperplasia of the liver and pulmonary arterial hypertension in patients with connective tissue diseases: report of three cases and review of the literature. | 岡田 純 | 膠原病感染内科 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---------------------------|--|-------|---------|
| 日本内科学会誌, 95, 1881-7 | 混合性結合組織病の病態と治療ー最近の進歩 | 岡田 純 | 膠原病感染内科 |
| 新薬と臨床, 55, 1446-52 | 抗TNF療法におけるinfliximabからetanercept変更の有用性 | 岡田 純 | 膠原病感染内科 |
| Intern Med, 45, 669-70 | Autoimmune hemolytic Anemia in Primary Sjogren's Syndrome | 岡田 純 | 膠原病感染内科 |
| 炎症と免疫, 14, 75-81 | プロスタグランジンによる遺伝子治療の可能性 | 遠藤 平仁 | 膠原病感染内科 |
| Medical Practice, 526-528 | 皮膚病変ーその診断のポイントー膠原病・セミナーー膠原病の特異的特異病変における診療のポイントー、膠原病のあらたな治療戦略とその実際ー | 遠藤 平仁 | 膠原病感染内科 |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。